

『外部対応』

1 1 社会との連携

基準 1 1 - 1

医療機関・薬局等との連携の下，医療及び薬学の発展に貢献するよう努めていること。

【観点 1 1 - 1 - 1】地域の薬剤師会，病院薬剤師会，医師会などの関係団体及び行政機関との連携を図り，医療や薬剤師等に関する課題を明確にし，薬学教育の発展に向けた提言・行動に努めていること。

【観点 1 1 - 1 - 2】医療界や産業界との共同研究の推進に努めていること。

【観点 1 1 - 1 - 3】医療情報ネットワークへ積極的に参加し，協力していることが望ましい。

[現状]

本学は、社団法人東京都薬剤師会薬学生実務実習受入施設整備事業特別委員会に臨床系教員を委員会メンバーとして派遣し、地域の薬剤師会との連携体制を整えている。本学教員は、この委員会において実務実習が円滑に実施できるよう提言を行うなど、薬学教育の発展に努めている。例えば、実務実習の課題として挙げられているセクシャルハラスメントやアカデミックハラスメント等に対して、ハラスメント防止パンフレットの作成に積極的に関与した。また、モデル・コアカリキュラムに沿った実務実習の実施に必要な認定実務実習指導薬剤師の人数が不足していることが地域の薬剤師会において問題となっていることから、本学教員 2 名が延べ 6 回にわたり認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップのタスクフォースとして協力し、指導薬剤師の養成に貢献した。

ところで、医療人としての薬剤師に求められるのは、日々進歩する薬学分野の最新医薬品情報を医師等の医療スタッフへ提供すること、医療チームの一員として最新の薬物療法を推進することなどが挙げられる。本学では、最新の研究成果を薬学教育にフィードバックするために、産学官共同研究の「薬学研究所」を開設し、産業界との共同研究を推進して医学及び薬学の発展に貢献している。

また、本学は医療機関との共同研究も推進している。喘息ガイドライン普及に向けたアンケート調査を地区薬剤師会と

共同で行い、喘息治療に薬剤師が積極的に関わることにより患者の苦痛が軽減される可能性があることを示している。

さらに、本学教員がテレビ番組やラジオ番組に出演し、薬学研究所の研究成果を医療情報として社会へ発信している。

[点検・評価]

1. 本学教員は、地域の薬剤師会と連携して実務実習の課題に対して提言を行い、さらに指導薬剤師養成に協力するなど、薬学教育の発展に貢献している。

2. 本学は、産業界や医療機関との共同研究を推進し、医学及び薬学の発展に貢献している。

3. 本学薬学研究所の研究成果を医療情報として社会へ発信するなど、医療情報ネットワークへ積極的に参加している。

[改善計画]

特になし。

基準 1 1 - 2

薬剤師の卒後研修や生涯教育などの資質向上のための取組に努めていること。

【観点 1 1 - 2 - 1】地域の薬剤師会，病院薬剤師会などの関係団体との連携・協力を図り，薬剤師の資質向上を図るための教育プログラムの開発・提供及び実施のための環境整備に努めていること。

[現状]

本学では、社団法人東京都薬剤師会生涯学習特別委員会に臨床系教員を委員として派遣し、地域の薬剤師会と連携をとりながら薬剤師の資質向上のための取り組みを行っている。例えば、本学教員は生涯教育プログラム開発の一環として E-Laerning システムの試用に関する提言を委員会において行い、その実施にも積極的に協力している。また認定制度に関する項目においても本学教員は提案し、薬剤師の資質向上を目指した卒後研修の実施に向けて環境整備を行っている。

[点検・評価]

本学教員は、地域の薬剤師会と連携しながら生涯教育プログラムの開発や卒後研修の環境整備に協力し、薬剤師の資質向上を推進するよう努めている。

[改善計画]

特になし。

基準 1 1 - 3

地域社会の保健衛生の保持・向上を目指し、地域社会との交流を活発に行う体制の整備に努めていること。

- 【観点 1 1 - 3 - 1】 地域住民に対する公開講座を定期的に開催するよう努めていること。
- 【観点 1 1 - 3 - 2】 地域における保健衛生の保持・向上につながる支援活動などを積極的に行っていることが望ましい。
- 【観点 1 1 - 3 - 3】 災害時における支援活動体制が整備されていることが望ましい。

[現状]

本学では、地域住民に公開している「生涯学習講座」を定期的に開催しているが、そのなかで保健衛生に関するものは5名の薬学部教員により11講座（全48回）実施されている（表11-3-1）。これらの生涯学習講座は、病気と治療薬、漢方薬や健康食品の使い方、医師や薬剤師とのコミュニケーションの取り方等について地域住民の理解を深める内容となっており、地域社会の保健衛生の保持・向上につながる活動となっている。

[点検・評価]

1. 本学は地域住民に対して保健衛生に関する「生涯学習講座」を11講座（全48回）開講しており、地域社会の保健衛生の保持・向上を目指した交流を活発に行っている。
2. 災害時における地域社会に対する支援活動体制は、十分には整備されていない。

[改善計画]

地域社会に対する災害時支援活動体制として、飲料水、食料、医薬品等の防災用品の備蓄量を増やす必要がある。また、医師や薬剤師の資格を持つ教員の協力体制を整える必要がある。

表 11-3-1 平成 21 年度生涯学習講座（保健衛生関連）

講座名	内容	回数
脳科学入門⑤ ー脳の病気とくすりー	脳のしくみを解き明かす脳科学の発展は、脳の病気への治療を可能にしました。代表的な脳の病気と診断、治療薬についてお教えします。病気を理解することは、脳の正常な働きを知ることにもつながります。	全4回
薬と上手につきあおう③ ー知って納得！聞いて安心！ー	薬の副作用について必要以上に不安に思うのではなく、正しく理解することによって冷静に心構えと対処することが大切です。便秘、胃潰瘍、高脂血症、喘息などの治療薬、消毒薬について、臨床薬学的に一步踏み込んで解説します。	全3回
健康食品Q&A	氾濫する健康食品、サプリメントと称する様々な商品について、正しく理解し、上手に利用できるよう薬剤師の立場から”正しく、わかりやすく”を信条にわかりやすく解説します。気になる商品の質問も受け付けます。	全4回
役に立つ漢方の知識	古代中国から日本に伝えられ、医師により工夫されて独自の発展・定着した漢方薬の適応と不適応や理論と独特な診断方法をやさしく解説し、症候・疾患別の処方をお話します。	全4回
健康で長生きするための医師と薬剤師の使い方 ー己を知り敵（病気）を知るー	「健康寿命」とは寝たきりや認知症にならず、健康に過ごす時間のこと。「健康寿命」を延ばすためには、己＝生物としての人間を知り、敵＝病気がなぜ起こるのかを知らねばなりません。具体的事例でお話を進めます。	全7回
脳科学入門⑥ ー視覚の不思議ー	「脳について知りたい」という皆さんの声に応じて脳科学入門講座を開いてきましたが、途中から受講された方から以前の講座をもう一度聞いてほしいというリクエストがありましたので、お応えします。今回は平成19年2月に開講した「視覚の不思議」の再演です。あなたが見ている世界は現実でしょうか。答えはNOです。あなたが目の前にあると思っている物は、あなたの脳が作り出した「虚像」です。様々な錯覚トリックの実験などを行いながら、私たちの脳が創り出す視覚世界の謎にせまってみてみたいと思います。	全3回
薬が効く仕組みを知ろう④ ー心臓血管系の病気と薬ー	「医薬品についてもっと知りたい」という皆さんの声に応じて、薬が効く仕組みについての入門講座を開いてきましたが、途中から受講された方から以前の講座をもう一度聞いてほしいというリクエストがありましたので、お応えします。今回は平成19年7月に開講した「心臓血管系の病気と薬」の再演です。私たちの生命を支える心臓や血管のつくりと働きを理解しながら、病気の原因・診断・予防・治療法についてできるだけ詳しくかつ分かりやすくお教えします。	全4回
薬と上手につきあおう④ ー知って納得！聞いて安心！ー	薬の副作用について必要以上に不安に思うのではなく、正しく理解することによって冷静に心構え、対処することが大切です。今回は、睡眠薬、胃薬、抗生物質、高脂血症や喘息の治療薬について（予定）、臨床薬学的に一步踏み込んで副作用やその対処方法を解説します。そして「副作用に対する考え方・上手な付き合い方」を学んでいきましょう。（* 講座開講前にとりあげてほしい話題や質問等をお寄せください）	全4回
健康食品Q&A その2	現在、健康食品、サプリメントと称する様々な商品が氾濫しています。正しく理解し、上手に利用できるよう、ビタミン・ミネラルをはじめとする栄養素から、最近良く耳にするものまで、薬剤師の立場から”正しく、わかりやすく”を信条に解説していきます。また、気になるものがありましたら気軽に質問してください。調べる時間を頂くこともありますが、科学的根拠に基づいて、お答えしていきたいと思っています。	全3回
漢方の基礎と応用	漢方医学は、古代中国の医学がわが国に伝えられて様々な医師達により工夫され、日本独自の発展を遂げて定着したものです。本講座では、先ず、漢方医学の基礎知識として“漢方のあゆみ”、“漢方薬が適応する疾患”、“漢方医学の理論と独特な診断方法”などの概略をお話し、次いで応用編として、実際に具合が悪くなった場合に、症状や疾患別にどのような漢方薬を選択したらよいかを分かりやすく解説いたします。	全4回
健康で長生きするための医師と薬剤師の使い方 ー賢い患者になる！ーその2	「健康寿命」をご存知ですか？寝たきりにならず健康で過ごせる時間のことです。健康寿命を延ばすためには、心と体のメンテナンスも必要です。このメンテナンスは、早く始めるほど効果があります。このメンテナンスのため、つまり、健康で長生きするための、医師と薬剤師の使い方などをお教えします。医師も薬剤師も賢いあなたに「使われる」のを待っています。健康寿命を延ばして、より人生を楽しみましょう！各回具体例を示し、ご質問及びご相談を受け付けます。	全8回

基準 1 1 - 4

国際社会における保健衛生の保持・向上の重要性を視野に入れた国際交流に努めていること。

【観点 1 1 - 4 - 1】 英文によるホームページなどを開設し、世界への情報の発信と収集が積極的に行われるよう努めていること。

【観点 1 1 - 4 - 2】 大学間協定などの措置を積極的に講じ、国際交流の活性化のための活動が行われていることが望ましい。

【観点 1 1 - 4 - 3】 留学生の受入や教職員・学生の海外研修等を行う体制が整備されていることが望ましい。

[現状]

本学薬学部では各研究室における研究業績を英文国際誌に発表し、国際社会に対する保健衛生のための研究成果を還元するように努めており、同時に本学ホームページは日本語、英語の両方で閲覧できるよう設定されている。ホームページを通して世界各国からアクセスできるようになっている。

また、表 11-4-1 で示す海外提携校とは単位互換制度を設けており、大学間国際交流に努めており、単位は、原則として本学の正規科目として認定可能な科目を 12 単位以上 30 単位まで取得可能である。

表 11-4-1 海外提携校との単位互換制度

国名	学校名	提携年	派遣期間	単位互換
カナダ	ビクトリア大学	平成 13 年	1 年	有
アメリカ	ミルズ大学	平成 9 年	1 年	有
韓国	培材大学校	平成 10 年	1 年	有
中国	天津外国語学院	平成 12 年	1 年	有
中国	大連外国語学院	平成 14 年	1 年	有
台湾	大仁技術学院	平成 15 年	1 年	有

本学ではもともと全学的に留学生を約 150 名受け入れており、留学生制度は整っているが、更なる留学生支援のために、従前の国際交流センターを発展的に組織変更し、事務局に「学生支援部国際交流課」を設置、更に教員によって構成された「国際交流委員会」を設けている。国際交流課は次のような業務を行

う。(1)外国人留学生に対する指導助言に関すること。(2)外国人留学生援助に関すること。(3)外国の大学等との交流に関する
こと並びにそれに基づく教職員及び学生の交換、招聘及び派遣
等に関すること、などである。更に職員の海外研修に関しては
さまざまなサバティカル制度を設けており、例えば5年以上勤
務した講師以上の専任教員は3カ月から1年間の海外留学資格
が与えられ、国際的な研鑽を積むための制度が整備されている。

[点検・評価]

1. 本学のホームページは英語・日本語の二カ国語によって閲覧
が可能であり、世界への発信が積極的に行われている。
2. アメリカ、カナダ及びアジア諸国と積極的な単位互換制度を
結び活発な国際交流が行われている。
3. 全学を挙げたきめ細やかな留学生受け入れ態勢を持ち、又積
極的な教員の研修制度が確立されていると評価される。

[改善計画]

特になし。